

●内藤家住宅

内藤家住宅は、奈良盆地のかつての環濠集落にある旧家である。主屋は、北向きの切妻造平入棧瓦葺で、入母屋造落棟の土間部分と二列六間取の床上からなり、床構え付きの座敷は離れに配する。奈良市内の農家住宅としては最大級の規模で、木太い良材を用いており、造りも上質である。長屋門及び塀は、窓が少なく閉鎖的で、まぐさを漆喰塗込めとする特徴的な意匠とする。中門は座敷庭を区画する切妻造本瓦葺の腕木門である。中庭北塀は屋敷北辺に建つ棧瓦葺で、水路石積護岸に建ち、座敷庭面は真壁造漆喰仕上げとする。近世に庄屋格、明治以降に帯解町長等を務めた旧家で、屋敷は水路とともに歴史的景観を形成している。

・内藤家住宅主屋（ないとうけじゅうたくおもや）

所在地 奈良市池田町
建築年代 明治前期／明治後期・昭和40年頃改修
構造・形式・規模 木造平屋建、瓦葺、建築面積221㎡

・内藤家住宅長屋門及び塀（ないとうけじゅうたくながやもんおよびへい）

所在地 奈良市池田町
建築年代 明治前期／昭和40年代改修
構造・形式・規模 長屋門 木造平屋建、瓦葺、建築面積38㎡
塀 木造、瓦葺、延長3.7m

・内藤家住宅中門（ないとうけじゅうたくちゅうもん）

所在地 奈良市池田町
建築年代 昭和前期
構造・形式・規模 木造、瓦葺、間口1.4m、袖塀付

・内藤家住宅中庭北塀（ないとうけじゅうたくなかにわきたべい）

所在地 奈良市池田町
建築年代 明治43年頃
構造・形式・規模 木造、瓦葺、延長12m